

白山市賑わい創出のためのマーケティング視点でのコンテンツ作成 ～「地域連携による地域貢献活動推進事業」～

団体名 ● 牧野ゼミナール(3年) / 代表者名 ● 牧野耀(経済学部経営学科・講師)

はじめに

金沢星稜大学「地域連携による地域貢献活動推進事業」SDGs未来都市 白山市のSDGsプロモーション活動の参加ゼミとして、本ゼミでは、白山市賑わい創出のためのマーケティング視点でのコンテンツ作成に取り組んだ。昨年度は、学生視点での白山市のPRを目的に、魅力的なスポットの情報収集、若者向けの動画撮影を行った。そこで今年度はより幅広い年代が関わることのできるコンテンツの企画・作成を行うことを目的に活動を行った。

活動内容

今年度の活動では、6月までにコンテンツ案のディスカッションを行い、7月から9月にかけて地域の方々との打ち合わせ、企画イメージのスケッチの作成を行った。10月に文化振興課へ訪問し、イベント開催に向けた相談を行った。その後、広告ポスターと地図の作成を行った。

まず学生間のディスカッションによって企画・作成するコンテンツ案として音楽イベントとスタンプラリーがあがった。音楽は年齢問わず誰もが楽しんで触れ合えること、スタンプラリーは、小さい子供が親と共に地域を回り、愛着を持てると意見が出た。

企画の実施を想定するエリアとして、まっとうまちなか商店街が挙がった。以前より白山市との議論の中で、松任駅から商店街への足並みが少ないことが課題として挙げられていた。このエリアで、音楽イベントやスタンプラリーを行うことで、普段は訪れない様々な方々が立ち寄れる契機となる。

そこで同商店街の楽器の店ボンポローの島崎様、まっとうまちなか協同組合の理事長の乙村様に、企画の提案を行った。企画にあたり、松任駅から商店街の聖興寺までのルートをつるべとられ道と名付けた。加賀千代女の俳句にちなんでいる。

白山市には芸術資源や活動があることから、「白山への寄り道、芸術への入り口」というイベントテーマも考案した。千代女が水をもらいに寄り道したように商店街への寄り道が、芸術に接するきっかけにな

ればという意味が込められている。同じく松任駅前を活動エリアとしている新ゼミと連携して、SDGsスタンプラリーの広告ポスターと地図作成も行った。

成果、結果の考察

直接、商店街の方に意見を伺い、お互いが納得のいく企画を計画することができた。また共感をもらえるネーミングを考案できた。これによりコンセプトが伝わりやすいイベント実施となる可能性がある。

今後の課題、展望

音楽イベントの実施は、準備や企画の具体化に時間を要するため、来年度の実施となった。今後より、綿密に計画を進めていく。



白山市商工課にて企画案の報告・相談



まっとうまちなか商店街での企画案の提案



地図イラスト